

【目的】 これまでの研究で、放射性セシウムを含む木材を焼却した際、灰化した木材ペレット中の放射性セシウムの残存率が、焼却温度の上昇とともに減少することを示唆する結果が得られている。

今回の研究では、焼却温度と放射性セシウムの残存率との関係を、より正確に知るために、先行実験では測定されていない焼却温度で放射性セシウムを含む木材ペレットを焼却し、灰中の放射性セシウムの含有率を測定した。

【結果】 今回 630°Cにおける放射性セシウムの残存率を測定し、先行研究と組み合わせると図.1 のようになり、燃焼温度を上昇させるにつれ、放射性セシウムの残存率は直線的に減少していくと考えられる結果が得られた。

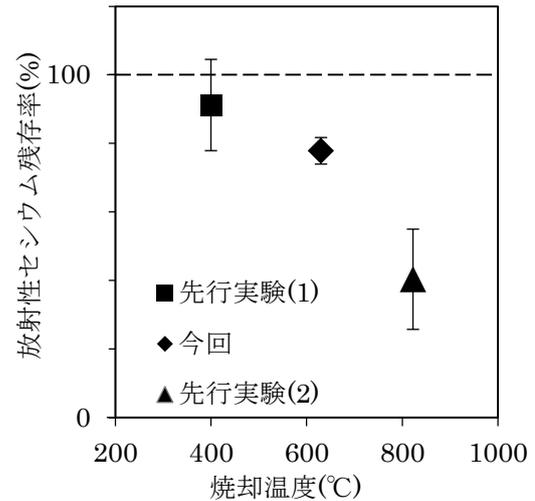


図.1 焼却温度と放射性セシウム残存率の関係